

号外

読者Express

発行所
読者新聞社
東京都千代田区大手町1-7-1
郵便番号100-55
電話 東京(03)3242-1111
© 読者新聞社 1996

日本発行日 1996年12月18日(水)

日本大使公邸を襲撃、占拠

ペルー、各国大使ら800人人質

ゲリラ仲間の解放要求

【リオデジャネイロ17日〃石黒穂】ペルーからの報道によると、同国の首都リマ市内で十七日午後八時三十分(日本時間十八日午前十時三十分)ごろ、多数の武装グループが駐ペルー日本大使公邸〃青木盛久大使(58)〃近くで爆弾を爆発させた後、公邸を襲撃、占拠した。公邸では当時、天皇誕生日の祝賀パーティーを開催中で、犯人グループは青木大使を含む出席者多数を人質に取り、立てこもっている。現場にはペルー軍当局が到着、犯人グループと銃撃戦を展開した。現地警察当局によると、犯人グループは二十、四十人と見られ、同国都市ゲリラのトゥパク・アマール革命運動(MRTA)による犯行の可能性が強い。

天皇誕生日、祝宴中



19日早朝、大使公邸前でマイクを手
に呼びかける赤十字病院関係

警察当局によると、人質となつてゐるのはフランシスコ・トゥデラ・ペルー外相や、ブラジル、ボリビア、キューバの各大使、ペルー国会議長ら。

青木大使は当初、人質の数は招待客八百人で、公邸の一、二階にいと伝えていたが、犯人グループがその後、婦人や高齢者ら一部人質を解放。青木大使は地元テレビに、現在六百八百人が人質となつてゐると語つた。解放された人質の中にはフジモリ大統領の母親が含まれてゐるとの情報がある。招待客の中には在リマ邦人企業幹部らも含まれてゐる。

一方、犯人グループが爆発させた爆発物は、大型のものも少なくとも一個と、小型のものが二個だったといふ。爆発は前後六回にわたつて起きたとの情報もある。警察などによると、軍と犯人グループの銃撃戦は約一時間にわたり、公邸周囲は狙撃兵らを取り囲んでゐる。犯人グループと見られてゐるMRTAは十七日深夜、地元ラジオ局に電話をかけ、犯行を認めた。

在リマ邦人企業幹部らも含